

令和5年度第2回青少年ホーム運営委員会 会議録（要約）

1 日時

令和6年3月18日（月）19時から20時20分

2 場所

松本市なんなんひろば 会議室

3 出席者

奥山祈副委員長、千葉葵委員（オンライン出席）、小澤美智子委員、勝亦達夫委員長

4 欠席者

小林宏安委員、二茅真由美委員

5 事務局

石川生涯学習課長、永井青少年ホーム所長、小船井青少年ホーム主事

6 議事

(1) 令和5年度事業経過報告

(2) 意見交換

7 意見

(1) 令和5年度事業経過報告について

・（奥山副委員長）資料4ページのスノーボードスクールについては、以前は1泊2日で開催していました。1日目の夜が、参加者同士の交流ができ楽しく、私を含め復活を楽しみにしている人たちが多いと思います。

・（小船井主事）今回も旅館は探しましたが、大人数を受け入れていただくところを見つけることができませんでした。市からの補助金はなく、強いて言えば庁用バスを使用するため、交通費がかからないくらいです。あとは、参加者の方々からの会費で保険や用具レンタル等を含めた費用を賄っています。宿泊になると、会費は1万円を超えますし、1日目の夜は飲酒も伴うと思いますので、二十歳以上の人たちが参加対象になると思います。

・（千葉委員）ひきこもりの若者支援に関して、私の周りの学生の皆さんは、将来に対する不安を感じている人たちが多いと思います。特にお金や社会等で何が起こるか分からない事に対する不安が大きく、学費をアルバイトで稼いでいる人たちもいます。

また、周りの人たちが皆忙しそうで相談がしづらく、気軽に話し合える場も意外と少ないと感じています。その意味で、パーティーは家と職場・学校の往復が多くなりがちな生活のため、出会いの場としては、効果があると思います。

あとは、就職相談で信州大学のキャリアサポートセンターを利用し、相談や添削指導

も行っていただきましたが、予約日程が埋まってしまっていて、必要な時になかなか利用ができないのが難点です。

- ・(小船井主事) 学生の皆さんにも、もっと若者お悩み相談室をアピールしたいと思います。

あと、ひきこもり研修会の第1・2回支援研修会では、オンラインで講座のみ参加いただいた方が多かったと思います。当事者の方が多かったと思います。

- ・(勝亦委員長) 研修会でも、対面とオンラインとを使い分けすることができれば、いい所どころかできると思います。
- ・(小澤委員) ジョブカフェは、多くの相談を受けていただけますが、ハローワークでは、相談人数に限りがあるため、どうしてもすぐに相談が聞けない欠点があります。また、若者お悩み相談室が活用されていないことが、もったいない感じがします。ひきこもり研修会は、講師の方々の経験・体験談が大変良かったです。また、グループワークが良かったという参加者の方々も多く「自分だけではない。」という共有や共感が得られたと思います。民生委員の方々も大勢参加されていました。
- ・(報告者) 民生委員の方々ともグループワークで一緒になりましたが、新任の方を中心に、学習をしながら同時に当事者の対応をしていると伺い、大変だと感じました。
- ・(小澤委員) またパーティーにつきましては、なかなか出会いの機会がないため、市で工夫しながら出会いの場を増やしてほしいと思います。

(2) 意見交換

- ・(小澤委員) 塩尻市のえんぱーくには、いつも多くの学生がいて、自習をしています。また、静かに学習をしています。なんなんひろばでも、例えば3階のフロアーに机・イスを設置することは、可能でしょうか。
- ・(勝亦委員長) 実験的に、期間限定でやってみるのもいいと思います。
- ・(小船井主事) フロアーへの机・イスの設置につきましては、消防法上難しい可能性がありますので、設置が可能かにつきましては、今後確認したいと思います。
- ・(報告者) 松南地区公民館で、本日の会場(3階 郷土資料室)を毎日学生を対象に自習室として開放していて、土・日曜日を中心に、大勢の学生が利用しています。若者カフェは、日曜日自習室の利用者が大勢になった場合、後から来た学生を案内し、数名利用してもらえました。
- ・(石川課長) 今年度、Mウイングの2階フロアーの自習室を拡張し、整備しましたが、更に利用者が増えていて、毎日100人以上は利用しています。小学生くらいなら、

芳川村井町にできた新しい施設も、利用が可能だと思います。

- ・(小船井主事) パーティーの件ですが、婚活と言われると、抵抗を感じる場合が多いです。
- ・(小澤委員) パーティーには行きたいが、恥ずかしくて行けない人もいます。
- ・(勝亦委員長) 今の学生の人たちの出会いは、アプリが主なのでしょうか。
情報発信の関係ですが、SNSやメールは情報が過多なため、かえって必要な人に届かない場合が多いと聞きます。親や友人から本人への口コミでの情報授受が、いちばん効果があるとの事です。また、親や友人はチラシやポスター、広報から情報を得る場合も多いとの事です。アナログな媒体も効果的な場合があります。
- ・(千葉委員) オンラインにはかなり慣れて、安心して利用できるようになりましたが、第一歩目が大変だったので、使い方を教えてくれるところがあったら良かったと思います。Zoomは、遠方からの参加が可能になるのは便利ですが、発言はしづらいです。
- ・(勝亦委員長) 青少年ホーム事業は多彩ですので、たくさんの人たちに利用し、知っていただくために、アナログとSNSとの方法を使い分けて周知していくことが必要だと思います。